元旦号
2010.1.1(第10号)
読むと元気になる 活字のビタミン
オレンジ新聞
小山薫堂（責任監修）率いるオレンジ・アンド・パートナーズのゆかいな社員たち

諭吉くん、出番です
～お年玉のちょっぴり元気になる使い方～

お年玉付き

《応募方法》「諭吉くん、出番です」はお年玉付き企画です。マイの書いたA、トモの書いたBいずれかの記事から、自分もこんなお年玉の使い方をしてみたいと思った方を選んでいただき、多かった方に投票いただいた方から該当商品を抽選で1名様にプレゼントします。投票はこちらのアドレスまで ex@orange-p.co.jp
※Aの商品：MoMAスカイアンブレラ Bの商品：全国共通商品券1万円分

A 晴れの傘

2010年。新たな10年の始まりですし、今までの混乱はリセットしたいところですが、まだまだ世界経済に明るいニュースは届きそうにありません。

ますます悪くなりそうな景気を憂いても気が滅入るだけなので、気持ちはデフレスパイラルに陥らないよう、今年はいつも以上に意識しながら前向きに生活しよう、と思っています。

毎日の生活の中で憂鬱になる事といえば、私にとっては「雨」。冬の雨はますます気分を撃沈させてくれます。そこで、気分のデフレ（収縮）対策として、冬の冷たい雨の中でもちょっと元気になれるグッズをご紹介します。

その商品は、見た目はかなり渋い真っ黒な傘。これが差すとビックリ。黒い傘を開けば、たちまちそこにルネ・マグリットの絵のような明るいスカイブルーの青空が広がり、この無邪気なユーモアは、憂鬱な雨を忘れさせるぐらい陽気な気分にさせてくれます。

この傘はMoMA（ニューヨーク近代美術館）のスカイアンブレラという商品＝写真。

デザイナーはティボール・カルマンというNYのグラフィックデザイナーです。良質のデザインは、国境や時代を超越し、私たちの毎日の生活をより素晴らしいものに変えてくれることを実感できる商品です。

ティボールの言葉で『無難なものは誰からも愛されない』というものを見つけました。情報に溢れた消費者の見識眼は今より更に鋭くなり、選択肢はますます広がるでしょう。そこで選ばれるのは、より多くの大衆に愛されるよう設計された芯がブレた物ではなく、エッジの立った個性ある商品だと再認識。

思いがけず、このプロダクトデザインの考察を通して、こんな世の中だからこそ、誰からも愛される仕事を目指すのではなく、主義・主張のある仕事をしていきたいと改めて衿を正す思いを抱きました。

傘を開くたびに、デザイナーの哲学が思い出され、ますます元気になれそうです。（マイ）

B 寒い日に、暖かい買い物

あるアンケート調査によると、小中学生の約7割が貰ったお年玉の半額以上を「預貯金する」と答えたそうです。中にはFX（外国為替証拠金取引）や株式に投資するという答えも。しっかりしてます、イマドキの子供たち。

自分が子供だった時の事を思い返すと、実はお年玉を何に使ったか全く覚えていません。貯金もしましたが、結局ちょこちょこ使って、気付いた時には無くなっていたパターンが多かった気がします。でも、ひとつだけはっきり覚えているものがあります。それは、母親にプレゼントした「白いウール毛のマフラー」、1万円也。実は、僕の母親の誕生日は1月1日なのです。

1年でいちばん忙しい日だから、母は誕生日を祝ってもらった事がほとんどなかったんです。直接渡すのが気恥ずかしくて、母のベッドの枕元に手紙を添えたプレゼントを置いておきました。それに気づいて半ベソでリビングに戻ってきた母の笑顔だけが、唯一記憶に残っている僕のお年玉の使い道です。

「両親に貰ったお年玉で、両親にプレゼントを贈る」。僕の母親のように誕生日だからだとか、特別な理由なんていりません。1年の初めに今年もお世話になる両親への感謝の気持ちを形にしてみる。なにより、予期していない時のプレゼントが一番嬉しいんです。

僕のお薦めはマフラーや手袋のように暖かくて普段身に付けられるもの。寒い時期に暖かくなる物を貰うと、なぜか気持ちも暖かくなります。こんな事を書くと「せっかく貰ったのに親に返すなんて…」という声が聞こえてきそうですが、もし、この記事を読んでくださった小中高生の方がいたら、1万円で味わういろいろな人生。さて、誰と見に行こう!?（サヨ）

それぞれの諭吉くん

映画祭

「もうDVDでしか見ることができない」と思っていた不朽の名作を、映画館で見る！ 2月から始まる「午前十時の映画祭」。この観賞券を1万円分買っちゃいます。『ローマの休日』で王女気分になったり、『ニュー！シネマ・パラダイス』で映画館の主になったり。1万円で味わういろいろな人生。さて、誰と見に行こう!?（サヨ）

ガソリン

某国政府は、暫定税率廃止してもガソリン代を下げないトリックを断行するようなので…いま1万円分のガソリンをクルマに詰め込んで、山へ走りに行く。お正月明けの、のどかな風景を見つけに。おっと、でも調子に乗って登りすぎて、凍結なんかに遭遇しちゃって諭吉くん多数出動、なんてことにならぬように！（オサム）

将棋盤

遠い親戚も集まって田舎料理を囲みながら談笑する中、縁側で始まる将棋の身内戦。子供の頃によく見た正月の光景だった。いつからか将棋盤もなくなり、皆で過ごす時間が少なくなってしまったのが寂しい。もう一度、今度は立派な将棋盤を用意して、近所のおじさんも誘って、皆で新年を祝う時間を作りたい。（ジュニア）

セカンドハンズ

中古、セカンドハンズものを街で探してみる。神保町の古本屋やレコード店、新橋のカメラ屋、いまどきはヤフオクもいいかも。誰かが使ったということは価値が下がる一方、誰かの思いを受けて次に僕の手元にあるという出会いの価値もある。きっと1万円握りしめて出かければ素敵なストーリーを買うことができる。（シンヤ）

縁結びグッズ

1万円を握りしめて向かう場所。それは「東京大神宮」です。必ず（？）いい人が見つかると評判のこの神社。まずは500円玉2枚をお賽銭に。そして4千円を資金に大吉が出るまでおみくじを引き続けます。そして残りの5千円で縁結びグッズを買いまくるのです。今年こそ結婚できますように。と願いを込めて！（シナ）

オーダーメードシャツ

もし、この歳でお年玉をもらったら。と、考えるだけでもワクワクする。以前、ある家族がオーダーメードのシャツを作る場に同席した。襟や袖、生地を順に選んでいく。仕上がりを楽しみにする時間、着心地のよさに憧れた。元旦に「襟を正す」という意味も込め、自分にピッタリのシャツをオーダーメードしてみたい。（ぱんこ）

自宅の本に万札

使い道のない1万円。欲しい物がない。そんな時、自宅の本に万札を挟む。捨てない、他人も見ない本。その後数日で忘れるので、自分の誕生日等に届くメッセージ・サービス等に隠し場所を書いておく。当日忘れていた1万円が発掘される。これはかなり嬉しい。その時には有効な使い道がある筈。1万円を2回楽しむ方法。（オヤカタ）

飯炊釜

日頃簡単に外食やコンビニで食事を済ませている方も多いはず。食を整えると、皆HAPPYになれますよ。そこでおススメなのが飯炊釜！ 仙台のこだわり職人が手作りで拵えた自慢の釜です。これが男でも簡単にうまいメシが炊けるんです。おいしいゴハンを食べて笑顔になって、まわりを幸せにしてみてはいかが？（キム）

焚き火台

♪たきびだたきびだおちばたき～ずばり今わたしが欲しいのは焚き火台です。高級レストランやホテルもいいけれど、余計なものを取り除き自然の中で過ごすアウトドアの魅力にはまっているわたしは、ワインやチーズをつまみながら焚き火を眺めて過ごす…そんな時間を今一番贅沢だと感じています。（みかん）

お年玉道場

新年、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。という挨拶と共に、お袋が作ったお雑煮を食べる。それが終わると届いた年賀状を1枚1枚仕分けるのが、小さい頃、実家で元旦を過ごす時の習わし。心の中でメーンイベントを待ちわびながら。そう、それはお年玉である。

事前にカタログでジャージやサッカーシューズをチェック。準備万端で一大イベントに臨んだ。あれから十余年、いつしかあげる方の立場へ。知り合いの子供に現金を裸のままお年玉としてあげた程度で、身近に甥っ子、姪っ子がいないので、これまで正式な形式であげたことがなかった。

兄も結婚してしばらく経つので、いつその時がやってきても良いように、そろそろ心積もりをしておこうと思う。なんせ子供にとってはメーンイベントだ。夢を壊してはならない。

お年玉の由来は諸説あるが、神様に奉納された鏡餅を参拝者に分け与えた神事から来ている説が多い。鏡餅は魂を映すとされていたことから、「魂＝玉」と言われ、歳神様の玉で「年玉」、神様のお下がりものだから御を付けて「御年玉」。

それを相手が子供とはいえ、裸で渡すのは失礼にあたるとして、ポチ袋に入れ、名前を書き入れ、ありがとうのひと言を添えて渡す。目上の方の子供に渡すときは「お年賀」とするなど、なかなか奥深い。他にも、お札は縁起が悪い四つ折りではなく、三つ折りにする。しかも、開いたときに表が見えるように肖像が描かれている面を内側に折る。硬貨は製造年が刻印されている面が裏。など、いろいろと気をつけなければならない。

給料は振り込まれカードや電子マネーが普及し、現金を扱う事が少なくなると、こういった風習も薄れてしまうもの。

そのうちお年玉もICカードにチャージして渡すなんて、味気ないことにならないよう、しっかりと受け継いでいきたいものです。（ナツ）

お年玉 虎の巻～3箇条～

其の1 お年玉は縁起物。紙幣は新札を準備し、肖像面を内側に右手前になるよう三つ折りにするべし。

其の2 年齢に合わせたデザインのポチ袋を準備し、名前もしくは名称を書き入れるべし。

其の3 なによりも感謝の気持ちが大切。子供の目をしっかりと見据え、ありがとうと言い添えて渡すべし。